

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	身体障害作業療法評価学		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	渡邊悠馬	背景	作業療法士歴7年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第3版(医学書院) 参考書:病気が見える Vol.7 脳・神経 第2版(メディックメディア)				
授業概要 各評価・検査を行う意義、具体的な実施方法を一部実技を交えながら学ぶ。また、代表的な疾患において必要となる評価内容を学ぶ。					
狙いと到達目標 ①各評価・検査を行う意義を説明できる ②各評価の手順をリスク管理も交えながら説明できる ③疾患毎の評価項目を列挙できる					
授業において実務経験をどのように生かすか 評価を行う際の配慮や、教科書の知識に留まらない臨床での応用などを伝えられる。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション・評価学の基礎				
2	感覚検査				
3	反射検査				
4	姿勢反射検査				
5	筋緊張検査				
6	協調性検査				
7	脳神経検査				
8	上肢機能検査				
9	脳血管障害・頭部外傷の評価①				
10	脳血管障害・頭部外傷の評価②				
11	脳血管障害・頭部外傷の評価③				
12	脊髄損傷の評価①				
13	脊髄損傷の評価②・上肢の末梢神経損傷の評価				
14	関節リウマチおよびその類縁疾患の評価				
15	その他の疾患の評価				
評価方法	筆記試験				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	精神障害作業療法評価学		必修	2年前期	15コマ・ 30時間
担当教員	加藤 和貴	背景	作業療法士歴19年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書:精神疾患の理解と精神科作業療法 朝田隆 他 中央法規出版 参考書:精神障害と作業療法 山根寛 三輪書店 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 ムジカルビュー社				
授業概要 精神領域における評価の視点を学び、それらを統合し全体像をとらえ考察を行う。					
狙いと到達目標 精神障害領域における作業療法評価の基礎を学び、それを説明できる。 対象者を広い視野で共感的に理解する態度を養う。					
授業において実務経験をどのように生かすか 対象者について評価を行う上で、教科書に書かれている基本的な視点を実際に援用する際の要点について伝え、得られた結果から妥当性のある考察に辿りつく思考を養う。					
授業計画・内容					
1	授業概要 授業の流れを理解できる。 他者評価の前に行うべきことを考え深める。				
2	精神科評価の特徴を説明できる				
3	観察の概要を学び実施する①				
4	観察の概要を学び実施する②				
5	面接の概要を学び実施できる				
6	情報収集の概要を説明できる				
7	精神機能の概要を説明できる				
8	身体機能の概要を説明できる				
9	集団と場について説明できる				
10	コミュニケーションの概要を説明できる				
11	防衛機制・欲求の階層について説明できる				
12	日常生活能力・社会生活能力について説明できる				
13	課題遂行能力・職業関連能力について説明できる				
14	全体像と考察の概要を説明できる。 事例を通して作業療法評価の基礎を確認する。				
15	質疑応答 振り返り				
評価方法	筆記試験				
自由記述 (メッセージ)	「他者を評価する」この言葉から受ける印象はいかがでしょう。ある人は傲慢な印象を抱くかもしれません。しかし評価することなしに焦点を絞った援助はできません。病的側面だけを見て悪く評価をすることが誤りであることはもちろん、過剰に良く評価しすぎることも対象者の可能性を狭める可能性があります。まずは自分を客観的に捉えてみましょう。スタートラインは「自分と向き合うこと」です。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	発達障害作業療法評価学		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	温井 恵	背景	作業療法士歴17年		
授業形態	講義+一部実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール(動きやすい服装で可)				
受講条件	事前課題に取り組んだうえで参加すること				
教科書等	発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第2版 三輪書店 イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社				
授業概要					
発達をつまづきを読み取るために運動、感覚、認知、社会的機能の正常発達を理解する。正常発達を理解した上で、その後必要となる能力の推察や環境設定におけるまで標準化された評価法だけでなく、観察から必要な情報を読み取り、支援計画立案に結びつけられるよう学習していく。					
狙いと到達目標					
・正常発達を正しく理解し、時系列的なつながりについて説明が出来る。 ・対象児・者および家族の支援計画立案のため、必要な情報を収集、整理して全体像を把握し、治療仮説を立てることができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
発達障害作業療法分野において、作業療法士は多くの役割りを担っている。発達をつまづきに対してのアプローチだけでなく、将来を見据えての役割の構築と社会への参加を意識した関わりが求められているため、本講での学びをベースに、実技にて問題点を把握するための評価視点を養い、実務に生かす。					
授業計画・内容					
1	発達障害領域における作業療法評価とは				
2	正常発達の理解①				
3	正常発達の理解②				
4	感覚と感覚統合療法				
5	認知機能の評価				
6	手の発達と評価				
7	口腔機能身辺処理(ADL)の評価				
8	社会的機能の評価				
9	遊びの発達と評価				
10	行動観察と問題点の整理				
評価方法	定期試験 実技、グループワークへの参加				
自由記述 (メッセージ)	本講は人間がどのように成長・発達し社会生活が営めるまでになるか発達学的、神経心理学的に学び、それを基礎に対象児を評価、支援していくための知識とする。人や自分自身に対して興味を持ち、お互いを尊ぶ気持ちを持って臨み、作業療法士を志す学生としてどのような援助につなげていきたいかをイメージしてほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	身体障害作業治療学Ⅰ		必修	2年前期	8コマ・16時間
担当教員	渡邊悠馬	背景	作業療法士歴7年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版(医学書院)				
授業概要					
作業療法における基本的な治療手技・原理について、目的・方法などを学ぶ。また、SOAP(問題志向型記録)での記録方法を学ぶ。					
狙いと到達目標					
評価と治療の繋がりを踏まえた上で、作業療法における基本的な治療手技・原理について説明することができる。SOAP(問題志向型記録)について説明することができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
治療理論だけでなく、臨床で経験した事例の情報を提示しながら進めていく。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション・身体機能作業療法学の基礎				
2	関節可動域の維持・拡大				
3	筋力と筋持久力の維持・増強				
4	筋緊張異常とその治療				
5	協調運動障害とその治療				
6	感覚・知覚再教育				
7	運動制御理論と運動学習				
8	作業療法の治療記録の書き方(SOAP)				
評価方法	筆記試験				
自由記述 (メッセージ)	この授業で基礎的な治療手技・原理を理解し、疾患ごとの治療法の理解(身体障害作業治療学Ⅱ)、実技(身体障害作業治療学実習)へと発展させていって欲しい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学		
授業名,属性	身体障害作業治療学Ⅱ		必修	2年後期	20コマ・40時間
担当教員	温井 恵・森田将健	背景	作業療法士歴17年目		
授業形態	講義・一部実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	解剖学、生理学、神経内科学、整形学の復習				
教科書等	ゴールドマスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第2版 メジカルビュー社 医学書院 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 医学書院 参考:病気が見える Vol.7 脳・神経 メディックメディア その他 適時資料配布				
授業概要 身体障害領域の作業療法の考え方と疾患、障害の違いによる、具体的な治療・訓練—方法、援助方法を事例や画像を利用しながら実践的に学ぶ。また、実際臨床で活躍するリハビリテーション職の講義を聞くことでより実践的に臨床をイメージ出来る構成とした。					
狙いと到達目標 ・身体障害領域の各種疾患に起因する発生機序、機能障害を理解し、その障害の改善や生活機能障害の軽減方法を説明できる。 ・評価学、治療学Ⅰからの学びをベースに症例毎の作業療法治療について説明でき、その疾患に起因したキーワードを想起でき、評価治療に役立てる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 身体障害作業療法分野において、作業療法士は多くの役割りを担っており、年々その分野や範囲も広がっている。退院後の社会復帰や参加を意識した関わりが求められているため、本講での学びをベースに症例による違いやリスク面への配慮も含めて援助につながるよう実務へ生かしていく。					
授業計画・内容					
1	身体障害領域における疾患別治療の実際				
2～3	脳血管疾患				
4	頭部外傷				
5～6	頸髄損傷				
7～8	頸椎症性脊髄症、その他脊髄疾患				
9～10	多発性硬化症,ギランバレー症候群 筋疾患(筋ジス, 筋炎,)重症筋無力症				
11～12	筋委縮性側索硬化症、パーキンソン病 脊髄小脳変性症脱髄性疾患				
13～14	関節リウマチ 手の骨折 腱板損傷 熱傷など				
15～16	手の末梢神経損傷 その他整形疾患				
17～18	呼吸器疾患 心臓疾患		(森田)		
19～20	癌 その他内部疾患など		(森田)		
評価方法	筆記試験				
自由記述 (メッセージ)	本講は身体障害領域において作業療法がどのように実践されているかを疾患毎に学ぶものである。年々分野の広がる身体障害領域においてどのような治療、援助が社会参加への手助けとなるか、外部講師からの臨床での症例なども聞くことが出来る構成となっているため、臨床を身近に感じながら意欲をもって参加してほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	精神障害作業治療学Ⅰ		必修	2年前期	8コマ・16時間
担当教員	佐々木康友・加藤和貴	背景	作業療法士歴19年		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	精神障害と作業療法 新版 三輪書店				
授業概要					
講義・グループワークを通じて、精神障害に対する概念の変遷と作業療法の理念を学び、精神科作業療法の基本的役割を理解する。精神科作業療法の治療構造について学び、作業療法実践の場がもつ特徴について理解を深める。					
狙いと到達目標					
対象となる疾患・障害についての社会的・生物学的背景について理解を深め、精神科における作業療法の役割・実施形態・治療者のあり方などを知り、説明できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
作業療法中の対象者のエピソードや、現場での気付き等を示すことを通して、作業療法の持っている力や効果、構造作りの大切さなどの理解が深まるように生かしていきたい。					
授業計画・内容					
1	精神の病と作業療法の歴史				
2	精神の病と作業療法の歴史				
3	精神の病と障害				
4	精神科作業療法の治療構造(時間・場)				
5	精神科作業療法の治療構造(作業活動)				
6	精神科作業療法の治療構造(集団)				
7	精神科作業療法の治療構造(治療者)				
8	作業療法の実施形態				
評価方法	筆記試験				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	精神障害作業治療学Ⅱ		必修	2年後期	20コマ・40時間
担当教員	佐々木康友・加藤和貴	背景	作業療法士歴19年		
授業形態	講義・グループワーク	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	精神障害と作業療法 新版 三輪書店				
授業概要					
講義を通じて、精神障害領域の代表的な疾患について、概要・実践される作業療法の特徴・禁忌事項等について説明する。また、グループワークやレポート作成を通じて、病をもつことのつらさや心象風景を考察し、理解しようと努力する姿勢を養う。					
狙いと到達目標					
これまでに学んできた精神機能や精神医学の知見を総合することにより、精神科の代表的な疾患に必要な知識と技術を説明することができる。また、精神の病を持ちながら生活する人に対する理解を深め、自分なりに説明することができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
実際の対象者さんの様子や、悩んでいること等の心の動きを紹介することで、疾患を持つ人という観点のみならず一人の人としての理解を深められるよう生かしていく。					
授業計画・内容					
1～5	統合失調症の作業療法				
6～9	気分障害の作業療法				
10～12	神経症圏の作業療法				
13～15	パーソナリティー障害の作業療法				
16～17	物質関連障害の作業療法				
18	てんかんの作業療法				
19	摂食障害の作業療法				
20	児童期・思春期の精神障害における作業療法				
評価方法	筆記試験				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	発達障害作業治療学Ⅰ		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	温井 恵	背景	作業療法士歴17年目		
授業形態	講義+実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール＋実習着ルール(動きやすい服装で可)				
受講条件	事前課題に取り組んだうえで参加すること				
教科書等	発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第3版 三輪書店 イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社				
授業概要					
発達障害作業療法評価学において学んだ知識を基盤とし、そこからの問題点把握、どのような援助方法、計画立案となるかにつなげていきながら実際の治療方法に必要な基本的な考え、技法について理解する。					
狙いと到達目標					
・発達障害作業療法においてどのような治療、援助方法があるか述べる事が出来る。 ・実技を通じて基本的な治療、援助方法について立案、実践することが出来る。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
発達障害作業療法分野において、作業療法士は多くの役割りを担っている。発達のつまずきに対してのアプローチだけでなく、将来を見据えての役割の構築と社会への参加を意識した関わりが求められているため、本講での学びをベースに、実技にてどのような治療手段や技法があるかを考察し、実務へ生かしていく。					
授業計画・内容					
1	発達障害領域における治療とは				
2	家族支援の実際				
3	姿勢コントロールへのアプローチ				
4	遊びについて				
5	手の操作性向上と身辺処理(ADL)能力獲得について				
6	摂食・嚥下機能とコミュニケーションについて				
7	感覚統合理論に基づいたアプローチ①				
8	感覚統合理論に基づいたアプローチ②				
9	知的障害に対するアプローチ				
10	総括				
評価方法	筆記・実技試験、グループワークへの参加				
自由記述 (メッセージ)	本講は発達障害分野において作業療法がどのように実践されているかを学ぶものである。発達障害分野においてどのような治療、援助が社会参加への手助けとなるか、作業療法士としての役割意識だけでなく、環境や社会が行っていくべき課題にも興味を持ち、取り組んでほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	発達障害作業治療学Ⅱ		必修	2年後期	20コマ・40時間
担当教員	温井恵・飛田孝行	背景	作業療法士歴17年目		
授業形態	講義+一部実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール(動きやすい服装で可)				
受講条件	事前課題に取り組んだうえで参加すること				
教科書等	発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第3版 三輪書店 イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社				
授業概要 発達障害領域の作業療法の考え方と疾患、障害の違いによる、具体的な治療・訓練—方法、援助方法を事例や画像を利用しながら実践的に学ぶ。					
狙いと到達目標 ・発達障害領域の各種疾患に起因する機能障害を理解し、その障害の改善や生活機能障害の軽減方法を説明できる。 ・評価学、治療学Ⅰからの学びをベースに症例毎の作業療法治療について説明できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 発達障害作業療法分野において、作業療法士は多くの役割りを担っている。発達のつまずきに対してのアプローチだけでなく、将来を見据えての役割の構築と社会への参加を意識した関わりが求められているため、本講での学びをベースに、症例による違いやリスク面への配慮も含めて社会参加への援助につながるよう実務へ生かしていく。					
授業計画・内容					
1	発達障害領域における疾患別治療の実際				
2～3	脳性まひ				
4～5	重症心身障害(てんかんを含む)				
6～7	脳血管疾患、脳外傷、脳炎、脳外科疾患など				
8～9	神経・筋疾患				
10～11	骨・関節疾患(脊髄性筋萎縮症・筋ジストロフィーなど)				
12	分娩麻痺				
13	染色体異常(ダウン症など)				
14～15	知的障害				担当:飛田
16～17	自閉症スペクトラム				担当:飛田
18～19	注意欠陥多動性障害 学習障害など				担当:飛田
20	総括				
評価方法	筆記・実技試験、グループワークへの参加				
自由記述 (メッセージ)	本講は発達障害分野において作業療法がどのように実践されているかを疾患毎に学ぶものである。発達障害分野においてどのような治療、援助が社会参加への手助けとなるか、外部講師からの臨床での症例なども聞くことが出来る構成となっているため、臨床を身近に感じながらより意欲をもって参加してほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	老年期障害作業治療学		必修	2年前期	10コマ・ 20時間
担当教員	中村 由美	背景	作業療法士歴12年		
授業形態	講義・グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 高齢期作業療法学 第3版 医学書院 ￥4,320				
授業概要					
高齢者に対する作業療法を実践できるようになるために高齢者の特徴や取り巻く環境を踏まえた作業療法を理解する。					
狙いと到達目標					
①高齢社会と高齢期の課題について説明できる。 ②高齢者の特徴と高齢期に多い疾患を説明できる。 ③高齢者に対する作業療法の過程を説明できる。 ④認知症の定義と分類、代表疾患とその症状を理解できる。 ⑤認知症高齢者に対する作業療法の在り方を理解できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
高齢者の特徴や作業療法について説明する際、実務で経験したことを事例として紹介することで理解を深める手助けとする。					
授業計画・内容					
1	・授業全体の目標確認と評価方法を理解し説明できる。 ・高齢社会を考える。 ・高齢期の課題を理解できる。				
2	高齢者の特徴(老化・老年症候群)を理解する。				
3	高齢期に多い疾患を理解する。				
4	認知症の定義・分類・代表疾患と症状を理解し説明できる。				
5	高齢者作業療法の実践の流れを理解し説明できる。 (高齢者の人権と尊厳・生活の見方・評価・目標設定・治療)				
6	認知症の作業療法の評価の種類と内容を理解し説明できる。				
7	認知症の作業療法				
8	ケーススタディー:要介護者の事例(医療から在宅まで)				
9	高齢者の転倒予防とリスク管理				
10	高齢者の作業療法まとめ				
評価方法	筆記試験100%				
自由記述 (メッセージ)	・教科書第3章の事例は読んでおくこと。 参考図書: 認知症を持つ人への作業療法アプローチ 改訂第2版 メジカルビュー社				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	高次神経障害作業治療学		必修	2年前期	10コマ・ 20時間
担当教員	温井恵	背景	作業療法士歴17年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	中枢機能の解剖学 神経内科学を理解した上で受講すること				
教科書等	標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第二版				
授業概要					
発達段階から高次脳機能を理解し、後天的に疾患及び受傷にて高次脳機能障害を呈した際にどのような臨床像となるか、そこで求められる作業療法士の関わりを評価方法、治療介入を通して学んでいく。自ら調べ学ぶ姿勢を養うためのグループワーク、理解度を確認するための小テストを随時おこなっていく。					
狙いと到達目標					
「高次脳機能」について理解し、高次な活動を構成している要素を分析、観察することが出来る 「高次脳機能障害」について脳の機能解剖から理解し画像診断、臨床症状、作業療法評価・治療の流れを理解し説明することが出来る 「高次脳機能障害」の臨床像についてイメージが出来、日常生活や活動へのリスクを検討し、かつ活動から観察することが出来る					
授業において実務経験をどのように生かすか					
目に見え難い障害であるが、日常生活や社会復帰に多大なる影響を与える高次脳機能障害を理解し、その介入方法を習得することで幅広い疾患、障害を持つ対象者に対しても適切な作業療法を展開出来るため、実務経験に生きる。					
授業計画・内容					
1	高次脳機能障害とは 高次脳機能の概要を学びグループワークで知識を深める				
2	高次脳機能障害を理解するための基礎 脳画像の診断 評価治療の基礎				
3	注意障害の作業療法				
4	記憶障害の作業療法				
5	失語症の作業療法				
6	失行症の作業療法				
7	失認の作業療法				
8	半側空間無視(USN)の作業療法				
9	遂行機能障害・社会的行動障害の作業療法				
10	統括・評価治療のまとめ				
評価方法	グループワーク 筆記試験				
自由記述 (メッセージ)	日常生活、社会復帰支援に対して積極的に関わるべき作業療法士として高次脳機能面の評価、治療は重要な視点であり、作業療法士が率先して担うべき範囲である。発達学的な視点からも理解していく事で幅広い分野で応用出来る為、意欲を持って学ぶ姿勢を期待する。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	身体障害作業治療学実習		必修	2年通年	30コマ・ 60時間
担当教員	中村由美	背景	作業療法士歴12年		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	動きやすい服装(スカート不可)				
教科書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 医学書院 ゴールドマスター・テキスト 身体障害作業療法学 第2版				
授業概要					
身体障害作業療法を実践できるようになるために、身体機能障害の治療原理を理解し治療が行えるようになる。					
狙いと到達目標					
①各治療主義の基礎知識(治療の目的・障害の原因・治療主義・留意点)を説明できる。					
②各治療主義の主たる手技を実施できる。					
③事例を通して臨床像と身体機能をとらえ適切な評価、治療を考案、実施できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
臨床での経験を生かして実技指導を行う。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション・治療を行う上での注意点				
2～3	関節可動域訓練				
4	筋力・筋持久力訓練				
5	筋緊張異常の治療				
6	協調性訓練				
7	感覚障害の治療				
8	バランス訓練(立位・座位)				
9～10	上肢機能訓練				
11	ポジショニング				
12	呼吸リハビリテーション(武藤先生)				
13～15	症例検討1 * 模倣中心	①症例情報から評価計画を立てる。 ②対象者(教員)に評価を行う。 ③評価結果から全体像をつかみ目標を設定する。			
16～18	症例検討2	④治療プログラムを考案する。 ⑤治療者として適切な態度で対象者(教員)に治療を行う。			
実技テスト					
19	まとめ				
20	当事者実習オリエンテーション				
21～30	CVA当事者実習(グループワーク・個人作業) 当事者の方に対し実際に評価・プログラム作成まで行う ①当事者に対して評価計画を立てる。 ②評価計画に基づき評価を行う。 ③治療者として適切な態度で対象者(当事者)に接する。 ④評価結果をまとめ考察、治療プログラム立案まで行う。 ⑤①を当事者と共有し治療を実施する。				
評価方法	実技試験70%・レジュメ30%				
自由記述 (メッセージ)	* 実技は繰り返し友達同士で練習すること。 * 貴重な経験をさせていただき当事者に感謝し本気で向き合うこと！				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	精神障害作業治療学実習		必修	2年後期	30コマ・ 60時間
担当教員	加藤和貴、佐々木康友	背景	作業療法士歴19年		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書:統合失調症の作業療法の進め方 堀田英樹 中山書店 参考書:精神疾患の理解と精神科作業療法 朝田隆 他 中央法規出版 臨床作業療法 山根寛 金剛出版				
授業概要 実際に行われている評価法やプログラムを演習する中で、その運営や適切な態度・行動・関係・役割を学ぶ。					
狙いと到達目標 治療を進める上で求められることを、精神障害作業療法評価学・治療学で学んだ知識・技術に基づいて具体的かつ体験的に理解する。併せて学生自身の自己理解を深め、意識的に自己の治療的活用ができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 職務を遂行する上で最も有益だったのは当事者、先人たちから学んだ経験知である。そして対象者について考える上で作業的存在としてとらえる大切さを実務経験から学んだ。それらを踏まえ作業療法の視点で捉える要素や要点を提示していきたい。					
授業計画・内容					
1	授業概要、身につけておくべき知識の確認 ロジャーズ 援助者の条件を学ぶ				
2	アロマセラピープログラム				
3	COPMを理解する				
4	COPMを実施する				
5	観察と記録、書き方のコツ(佐々木)				
6	記録の振り返り(佐々木)				
7	インタビュー面接の目的・流れを理解する				
8	ヘルピングスキルを学ぶ				
9	構成的作業面接(箱作り方)概要を知る				
10	構成的作業面接(箱作り方)を実施する				
11	治療的コミュニケーションを学ぶ				
12	レクリエーションの概要と準備				
13	SSTの理論的背景・技法を学ぶ(佐々木)				
14	SSTを実施する(佐々木)				
15	各班毎にレクリエーションを実施①				
16	各班毎にレクリエーションを実施②				
17	レクリエーションを振り返り集団因子を理解する				

18	就労の概要を知る 働くことについて考える
19	ケーススタディー(佐々木)
20	ケーススタディー(佐々木)
21	当事者講演を聞き質疑応答 多摩棕櫚亭協会
22	多摩棕櫚亭協会 訪問 (各グループごとに日にちが違います。事前掲示します)
23	ケーススタディー(佐々木)
24	ケーススタディー(佐々木)
25	ワークショップ 絵本作り①を体験する
26	ワークショップ 絵本作り②を体験する
27	クライシスについて考える
28	クライシスについて考える
29	振り返り・質疑応答まとめ
30	実習に向けた 質疑
評価方法	レポート(40%)・筆記テスト(60%)を併せて評価する
自由記述 (メッセージ)	精神科で行われている作業療法の一部を体験し、その治療構造への理解を深めることで、明確な意図を持って対象者と関わっていけることを目指します。 行う作業活動の何が楽しくて何が大変なのか。様々な演習を通して実感してほしいと思います。

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	日常生活活動援助学		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	中浦 俊一郎	背景	作業療法士歴23年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	「ADLとその周辺―評価・指導・介護の実際」 医学書院				
授業概要					
ADLの各項目を「いつ」「どこで」「誰が(と)」「何を」「どのように」「なぜ」行うのかという視点から分解していく。普段何気なく行っている日常生活を作業療法の視点により分解する作業を行う事で評価の目を養っていく。					
狙いと到達目標					
一般目標:作業療法士として日常生活活動に関する評価・介入・指導が出来るための知識・技能・態度を身につける					
行動目標:					
①各項目における正常な動作との比較から目的や原理について説明できる					
②ADL評価であるFIMやBIを用いて事例を読んで判定することができる					
授業において実務経験をどのように生かすか					
訪問作業療法に携わる中で、利用者様の個々の日常生活を環境との相互作用の観点からみる機会があった。障害を持ちながらも生活するとはどういうことかについて利用者様の目線にて伝えることができる。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション				
2	ADLの全体像／アプローチ方法				
3	起居動作について考える				
4	移乗動作について考える				
5	移動動作について考える				
6	食事動作について考える				
7	入浴動作について考える				
8	排泄動作について考える				
9	整容動作について考える				
10	コミュニケーションについて考える				
11	評価 FIMの概要の把握と実際の判定基準①				
12	評価 FIMの概要の把握と実際の判定基準②				
13	評価 FIMの概要の把握と実際の判定基準③				
14	評価 FIMの概要の把握と実際の判定基準④				
15	評価 Barthel Indexの概要と実際の判定基準				
評価方法	筆記試験100% 持ち込みは不可(ただしFIMに関する配布資料の持ち込みは可)				
自由記述 (メッセージ)	教科書の他にも「クリニカル作業療法シリーズ 福祉用具・住環境整備の作業療法 中央法規」も参照してください。 1～10コマに関しては体を動かしながら授業を行うので動きやすい服装で参加して下さい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	日常生活活動援助学実習		必修	2年後期	20コマ・40時間
担当教員	中村由美・中浦俊一郎	背景	作業療法士歴12年		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	動きやすい服装(スカート不可)				
受講条件	特になし				
教科書等	ADLとその周辺 第3版 医学書院				
授業概要					
作業療法士として日常生活活動(以下ADL)に関する指導・援助ができるように各種疾患についてのADL上の問題と指導・援助方法を習得する。					
狙いと到達目標					
①ADLの指導・援助の基本的な考え方を理解し説明できる。					
②各疾患のADL上の問題を想起、説明できる。					
③各種疾患の特徴を踏まえ主たるADL障害に対する指導・援助方法を実習を通して修得する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
臨床での経験を生かし実技指導を行う。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション(ADL指導・援助の基本)				
2	脊髄損傷(頸髄損傷)	障害の概要・寝返り			
3		起き上がり・床上移動			
4		移乗動作・除圧動作			
5	脳卒中(片麻痺)	障害の概要・起居動作			
6		立ち上がり・移乗動作			
7		移動(歩行・階段昇降)			
8		トイレ動作			
9		更衣動作(大きめのスポンとかぶりシャツ、前開きシャツ用意)			
10		入浴動作			
11		家事の工夫			
12	高次脳機能障害	障害の概要・指導と介護(半側空間無視・失行)			
13	症例検討(CVA)	①症例情報から評価計画を立てる			
14		②評価結果から全体像をつかみ目標を設定する			
15		③治療プログラムを考案する			
		④治療(ADL/IADL)を行う。(見学→模倣→実施)			
実技テスト					
16	まとめ				
17	自助具作成	○各疾患と自助具の適応について整理できる			
18		○自助具を作成する			
19		○症例検討にて自助具作成のアイデアを話し合う			
20					
評価方法	実技試験80% 自助具レポート20%				
自由記述 (メッセージ)	それぞれの疾患の特徴について復習してから授業に臨むこと。 (身体障害治療作業療法学の復習)				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	義肢装具学		必修	2年後期	15コマ・ 30時間
担当教員	中浦俊一郎・阿部幸一郎 佐々木亮平	背景	作業療法士歴23年		
授業形態	講義・実技	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール＋実習着ルール				
受講条件	特記なし				
教科書等	大庭潤平編著「義肢装具と作業療法 評価から実践まで」 医歯薬出版株式会社 2017.				
授業概要					
1.対象者の障害に応じた下肢装具・義足の活用方法を知るために、構造や適合を理解する 2.臨床で下肢装具・義足を活用するために、下肢装具や義足体験をする					
狙いと到達目標					
1.義肢装具療法における療法士の役割を述べるができる 2.義肢装具療法の目的を述べるができる 3.義肢装具療法の適合判定を記載できる 4.ドレッシング方法を体験し、ドレッシング方法を説明できる 5.下肢装具の装着体験を通じて、下肢装具のメリットとデメリットを述べる事ができる					
授業において実務経験をどのように生かすか					
当科目は佐々木亮平(理学療法士)が担当しその実務経験を授業内容において、より臨床的な内容になるように生かす					
授業計画・内容					
1 講義	下肢装具・下肢義足 総論～下肢装具各論(目的、適応、構成要素)ー佐々木				
2 講義	下肢装具各論(短下肢装具・長下肢装具)ー佐々木				
3 実技	下肢装具と体幹装具体験ー佐々木				
4 講義	義足各論(切断原因、切断部位と義足、断端ケア、義足の構造)ー佐々木				
5 実技	下肢切断のリハビリテーション(良肢位、ソフトドレッシング)ー佐々木				
6	講義 上肢装具の適用と切断肢評価ー中浦				
7	講義 義手の構造と分類ー中浦				
8	講義 義手のチェックアウトー中浦				
9	講義 義手装着訓練と日常生活への適応ー中浦				
10	講義 各疾患と装具(スプリント)の適合①ー中浦				
11	講義 各疾患と装具(スプリント)の適合②ー中浦				
12	演習 スプリントの作成①ー阿部				
13	演習 スプリントの作成②ー阿部				
14	演習 スプリントの作成③ー阿部				
15	演習 スプリントの作成④ー阿部				
評価方法	期末筆記試験(中浦40点 佐々木30点 30点満点) 再試験当者は各担当の合計点数の6割に満たなかったものとする。 トータルでは合格だが、それぞれの担当において6割に満たなかった試験に関しては「教育的再試」として実施する予定である。				
自由記述 (メッセージ)	上肢装具や義手に比べて関りが薄くなりやすい下肢装具と義足ですが、臨床現場にでると一人の医療従事者として、またセラピストとして知っておくべき内容になっています。是非臨床に出たときに下肢装具・義足で困らないよう意識して講義・体験実技に臨んで欲しいと思います。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法研究法Ⅰ		必修	2年後期	8コマ・16時間
担当教員	芳賀孝志	背景	企業研修及び専門学校の講師の経歴		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	作業療法士のための研究法入門 著者名:鎌倉 矩子 他 出版社:三輪書店				
授業概要 ・研究の一連の流れを理解する。 ・文献レビューの方法を学び、実際にテーマに沿った文献検索をしたり、文献の批判的な読み方などを学ぶ。 ・研究法Ⅱで行いたい研究テーマ(仮)を決定し、研究計画作成の練習をする。					
狙いと到達目標 作業療法の研究のやり方について、一連の流れを理解し、研究に必要な基礎知識・技術・態度を身につける。					
授業において実務経験をどのように生かすか 複数の企業での職務経歴や、様々な業種の顧客企業へのサービス提供における関連経験を基に、事例を活用しながら、生徒の理解を促進する。					
授業計画・内容					
1	研究とは	研究の意義、研究疑問と研究の様式、研究の倫理			
2	研究の種類と論文構成	文献研究、調査研究			
3	研究の種類と論文構成	実験的研究、シングルケースデザイン、事例研究			
4	文献レビュー1	文献レビューの目的、探し方、読み方、書き方			
5	文献レビュー2	自分の考えたいテーマについて、文献カードの作成			
6	文献レビュー3	文献カードを基に、文献レビューのまとめを作成			
7	研究計画書の作り方1	一般的な研究計画書、事例研究の研究計画書の作り方			
8	研究計画書の作り方2	研究法Ⅱで書きたい仮テーマを決定、研究計画書の作成等			
評価方法	出席・ミニテスト・文献のまとめ・研究計画書				
自由記述 (メッセージ)	研究法は、難解な勉強と恐れている人が多いと思います。しかし、研究者の誰もが、はじめは同じ不安を抱いていたことでしょう。そして、どんな研究者も、基礎から研究法の学習を始めたはずですので、みなさんも恐れる必要はありません。みなさんが、追究したいテーマを研究するために、楽しく一緒に学んでいきましょう。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床作業療法演習Ⅱ		必修	2年前期	20コマ・ 40時間
担当教員	温井 恵	背景	作業療法士歴17年目		
授業形態	実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール＋実習着ルール				
受講条件	日々の授業における分野別理解、疾患別理解をしておくこと				
教科書等	分野に準じたものを使用すること				
授業概要					
4日間、臨床現場に出向き、資格ある作業療法士の指導のもと検査・観察・面接の一部を体験する。臨床場面に身を置くことによって医療人、社会人としてのマナー、礼節を学び、OTとしての役割意識を高めていき、評価実習に向けての準備、自身の課題を明確にする。					
狙いと到達目標					
作業療法臨床の現状への理解と見聞を深める。作業療法士の働きと対象疾患、作業療法で用いられる活動・道具への関心を高める。対象者に対する検査・観察・面接の一部を体験する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
職務を遂行する上で最も有益だったのは臨床から学んだ経験知である。指導者としての経験をもとにより良い臨床体験となるよう指導に生かす。					
授業計画・内容					
1	病院・施設および作業療法室についてのオリエンテーションを受け、作業療法（士）の役割、作業活動の用い方、道具の用い方などに触れる。作業療法士の介入場面、対象者の観察を行い、必要項目に分類した上で記録する。許される範囲内で対象者に触れる機会（身障領域においてはROMT,MMT他の一部実施、精神領域においては対象者の状況に応じた適切な交流や面接等）を持ち、記録する。 また、2年生ではより専門的な知識を学んでいくため、これらの学びのイメージが持てるような体験が積極的にしていられることを望む。				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17	実習結果をまとめクラスの中で発表する。実習結果について振り返り、講評、指導を受ける。				
18					
19					
20					
評価方法	臨床作業療法Ⅱチェックリスト				
自由記述（メッセージ）	実際の臨床場面を見学させて頂くことで学校での学びをより深く知る機会となり、また新たな疑問を持ち、意欲を持って戻ってきてくれることを期待します。臨床場面での経験がより良い時間となり、その後の学ぶ意欲を高めてくれますので、充実した4日間として欲しいです。また、				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	環境整備論		必修	2年後期	12コマ・24時間
担当教員	中浦 俊一郎	背景	作業療法士歴22年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 地域作業療法学 第3版 医学書院				
授業概要					
作業療法士において環境因子への関心は必須であり、対象の方の利点を最大限に生かすために欠かせないアプローチ方法の一つでもある。様々な疾患の状態像に合った用具の選定においては疾患の知識に加えて用具の特性を把握しておくことも同じように重要である。また、住宅改修においては対象の方の状態に合わせて住環境を整えていく必要もあり、作業療法士だけではアプローチできない場合もある。福祉用具も同様だが、他職種との情報や目標の共有が必要であり、この共有のプロセスにも触れ、学習していく。					
狙いと到達目標					
一般目標： 環境整備についての基本知識と適合技術の習得ができる					
行動目標： ①環境を整備する意義を説明できる ②疾患の特性と環境の特性を整理できる ③建築関係の基本的知識を想起できる ④住宅改修の事例にて対象者と住宅改修のマッチングについて判定できる					
授業において実務経験をどのように生かすか					
訪問作業療法に携わる中で、建築関係、福祉用具関係の職種と関わる機会を多く持つことができた。適合における多職種への配慮や連携の取り方についても伝えることができる。					
授業計画・内容					
1	生活上における福祉用具の役割				
2	ベッド・床上動作関連				
3	移乗関連				
4	移動関連				
5	食事関連				
6	整容関連				
7	更衣関連				
8	入浴関連				
9	排泄関連				
10	コミュニケーション・環境制御装置関連				
11	住宅改修の基礎知識①				
12	住宅改修の基礎知識②				
評価方法	筆記試験100% 試験当日はA4用紙2枚までの資料を持参しても構わない(ただし、裏表の場合は1枚とする)。				
自由記述 (メッセージ)	参考書:OT・PTのための住環境整備論 第2版 三輪書店 国際福祉機器展へ参加する予定である。その後の振り返りを授業内に入れるため、項目が前後する可能性がある。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床実習Ⅰ-1及びⅠ-2(評価実習Ⅰ/Ⅱ)		必修	2年後期	(68コマ・135時間)×2期
担当教員	温井恵	背景	作業療法士歴17年目		
授業形態	臨床実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール＋実習着ルール				
受講条件	今までの学びを自身の中で整理出来ていること。				
教科書等	特になし				
授業概要					
実際に医療機関・関連施設へ出向き、自己学習や指導者による助言・対象者とのやり取りなどから、検査・観察・面接から得られた情報を統合整理し、対象者の全体像を把握した上で作業療法目標を立案する経験をする。実習後は校内で発表を行い、教員と振り返りを行い学びを深める。					
狙いと到達目標					
臨床現場での作業療法士としての基本的な態度、社会人としての立ち振る舞いを指導者助言のもと修得する。指導者の指導のもと作業療法、及び作業療法士の役割機能を学び、対象者の全体像を把握するために必要な評価方法を理解し実施できる。評価に基づき、問題点の一部を提示し、目標設定を行う。その他対象者の全体像の把握に必要な情報を収集し、学内にて情報の整理、統合を行い、作業療法実施に必要な評価を身につける。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
職務を遂行する上で最も有益だったのは臨床から学んだ経験知である。 指導者としての経験をもとにより良い臨床体験となるよう指導を行う。					
授業計画・内容（以下をⅠ期Ⅱ期の2期行う）					
1週目	施設の概要・作業療法の役割を知る。対象者に関わり指導者の指導のもと初期評価を行う。				
2週目	指導者の指導のもと作業療法評価の理解を深め実施していく。評価結果から得られる情報を統合し、対象者の全体像、必要となる作業活動を考えまとめる。				
3週目	評価結果から得られる情報を統合し、対象者に必要な作業活動を考え可能化する計画を立て、情報を集約したレジュメを作成する。				
評価方法	臨床評価実習学生評定表、学内評定表				
自由記述 (メッセージ)	今までの学びを実践する場として理論での理解を実務として経験してきて下さい。座学だけではイメージ出来なかった疾患、治療、作業療法介入を見て経験出来る貴重な時間となります。一日一日を大切に丁寧に、自身の学びの時間として楽しんで下さい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法管理学		必修	3年前期	8コマ・16時間
担当教員	中浦俊一郎・温井恵	背景	作業療法士歴23年/17年		
授業形態	講義	実務家教員	である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 作業療法概論 第3版 医学書院				
授業概要					
職業人として活動するための基本的態度の習得、医療技術系専門職としてのチームワークに必要な基本的態度の習得、作業療法士として必要な管理運営に関する知識の習得を図る。					
狙いと到達目標					
組織に置ける管理運営に関する知識を習得し、自ら運営する意識をもち行動できる。また、医療現場で働く作業療法士として自身や環境に対してのリスク管理を学び、実習やその後の臨床場面においても実践が出来る。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
質の高い作業療法を提供するために、管理運営業務大きく関わっていることを現場の実例から説明することで、理解に深まりを促すことができる。					
授業計画・内容					
1	組織とマネジメント(中浦)				
2	作業療法士のキャリア開発(中浦)				
3	作業療法倫理観と起業精神(中浦)				
4	作業療法士における教育的視点(中浦)				
5	社会保障制度における作業療法士(中浦)				
6	セルフマネジメント(温井)				
7	日常業務と管理運営(温井)				
8	作業療法倫理(温井)				
評価方法	授業内小テスト(50%)＋レポート(50%)				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法研究法Ⅱ		必修	3年前期	8コマ 16時間
担当教員	中浦俊一郎	背景	作業療法士歴23年		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	特になし				
受講条件	特になし				
教科書等	作業療法士のための研究法入門 三輪書店				
授業概要					
研究法Ⅰで学んだことや、評価実習での経験などから、より深めたい課題を見出し、内容について詳しく調べ、自分なりの結論や考察を導き出し、論文の形式に則ってまとめる。					
狙いと到達目標					
一連のプロセスを通じて、多角的に物事を見ていくことや論理的に思考を進める方法を実践し、研究レポートを作成・発表する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
作業療法士として現場に立つ際の、『冷静な頭』と『温かい心』を組み合わせ対応していく経験から、物事を客観的にとらえていく方法・自分の中の問いを深めていく方法に関する助言に生かすことができる。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション、研究レポート作成				
2	研究レポート作成				
3	〃				
4	〃				
5	〃				
6	〃				
7	研究レポート発表				
8	研究レポート発表				
評価方法	研究レポート作成過程、研究レポート内容。				
自由記述 (メッセージ)					